

ソムの淫獣

復讐の女退魔師 01 絶望のその先に...

ギヒッヒッ



このカスが!

アアア

なにも出来やしなくせに
イキがつてんじやないよ



アアア

アアア

アアア

人間のぶんざいで
我等に歯向かうから
痛い目みるのよ

可愛い触手達に
喰われちまいな

あつ…あああ
そんな!?

フツッどう?
これで分かったかしら

まつ…マサルさんが
なんなのよ…これ

お前ら人間は
我ら魔族の
大切な家畜

だから
お次は…



オッパル

メスは利用価値が
高いからすぐに
殺したりしないの

そんなに
怖がらなくても
いいわよお

来ないで!



いっ...いやっ



いやあああー

近寄らないで
この化け物!

ドブ



あああつ
誰か!

誰か
助けてえ!!



ククツだからあ
無駄だつて
言ってるでしょ

お馬鹿ちゃんねえ

心配しなくても
可愛がつてあげるから

これでね



あら

変態のあとには
化け物呼ばわり

失礼しちゃうわね

こう見えても
ちよと前までは
人間やつてたのよ

ほおら 見てえ
どうよこれ

素敵な
チンポでしょう

私の愛しいご主人
ガロン様に頂いたのよお

今からこれで
あなたのマンコを
穿り回して上げる

気持ちいいわよ

でも

その前に



クククツ どうかしら
これが私
——
ゲート
闇門の門番ガロンヌ
の本当の姿

全ては我らが王都ソドムと
永遠の主ガロン様のために





あ……はっ……
はっ……やめ……

食べちやいたい
ぐらいに

ウフフフツ やつぱり
可愛いわねえ あなた



この目を見たらすぐに楽になるから

心配しなくても大丈夫よ



クミンクとアレ...
こころいぢ

頭の中に溢らなホルモンが
とんとん溢れてくる感じ

はっ

はっ

アレ...

イラ...



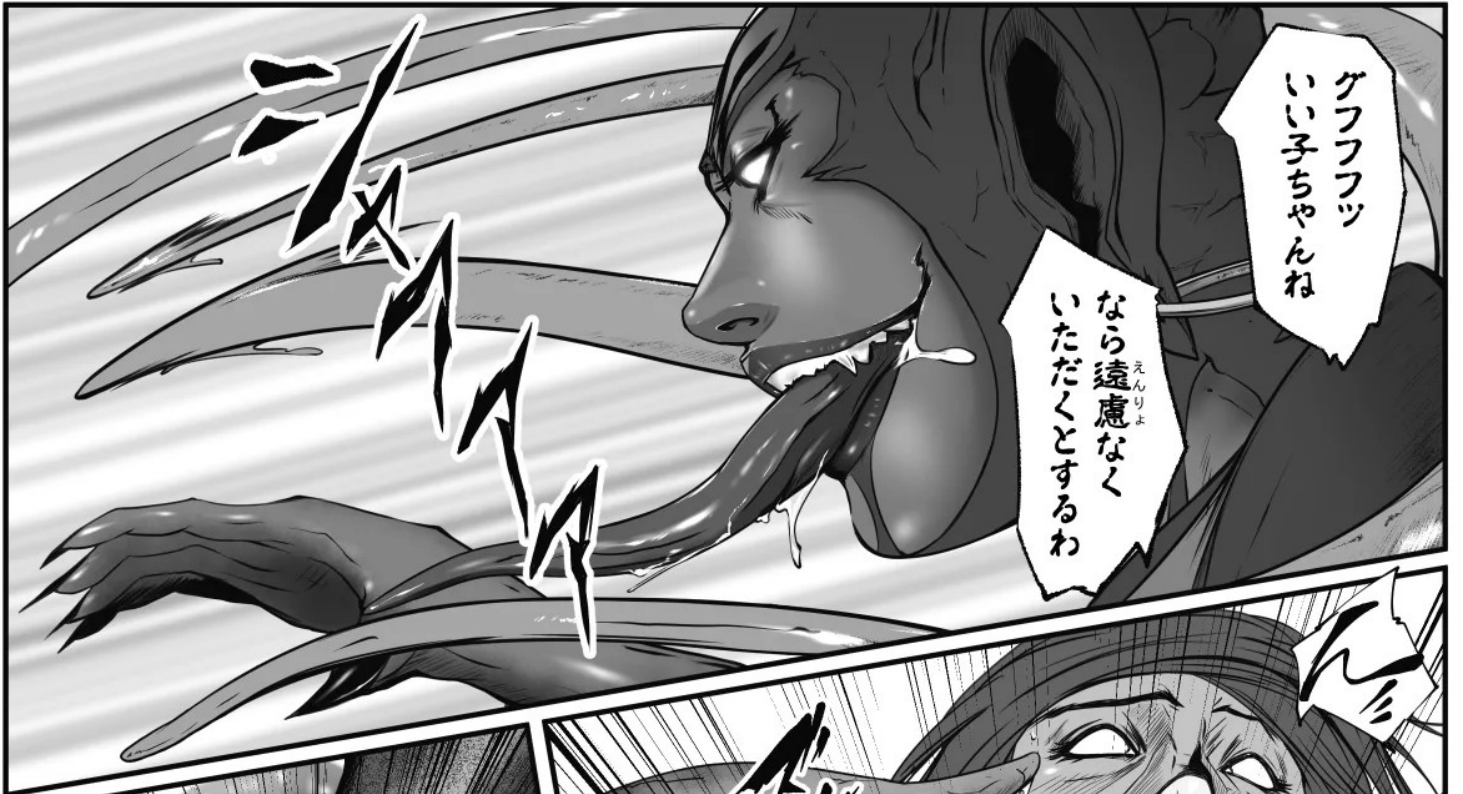
おお
こらこら
こらこら

はあ...

はっ

はあ

おまえも
アレのことしか
頭のない色情に
変えてあげる



ゲフフフツ
いい子ちゃんね

なら遠慮なく
いただくとするわ



存分に愉しんで
堕ちるがいい

あ

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

あハアアア!!

ああ

ドドド

ドド

ド

はっはっ

ドド

尻持ちの癖が...

おしん——

ずっ

気持ちいいいい

ア





おっ

あッ

アッ

アッ

ククッ いい反応ね
それでいいのよ

アッ

あッ

アッ

アッ

あの男のように
死にたくなければ
この快楽を心の底から
受け入れるのだ

ほおれ
とんとん気持ちよ
なってきただろう

おん

おん

おん

おん

どうだい？

秘めていた本性が
剥き出しになる感覚

最高でじやう

おん

獣じみた肉欲に
支配される感覚

おん

その感覚が
お前を闇の世界へと
導いてくれる

さあもつと
痴れ狂え！

そうすれば
お前の心にも
闇が開く

そして人間などという
下らぬしがらみから
解放され素晴らしい
未来を手に入れるのだ

この私の様に！

はアあッ！
気持ちいいッ



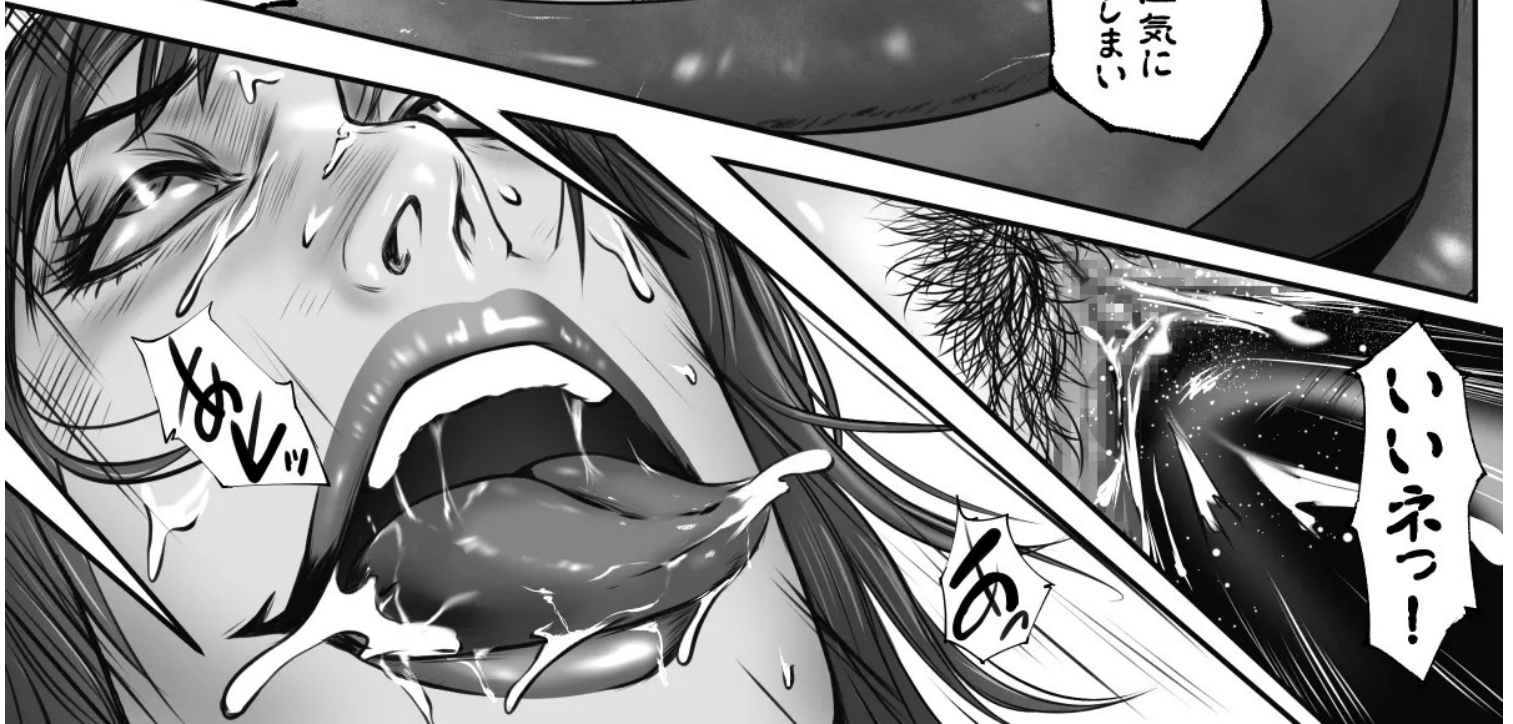


そうだろう
イイだろう

さあ
そのまま一気に
落ちておしまい

クツクツクツ
お前はもう私のものだ

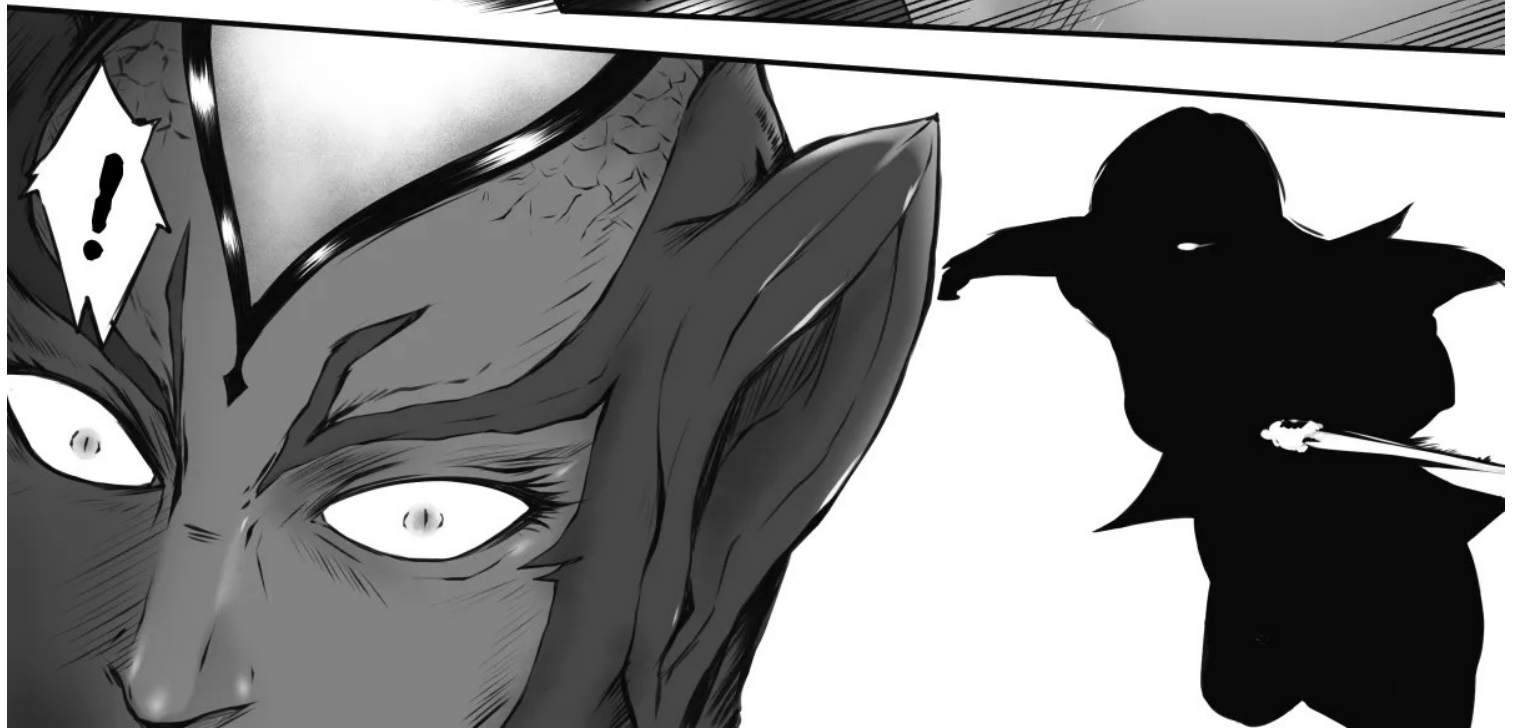
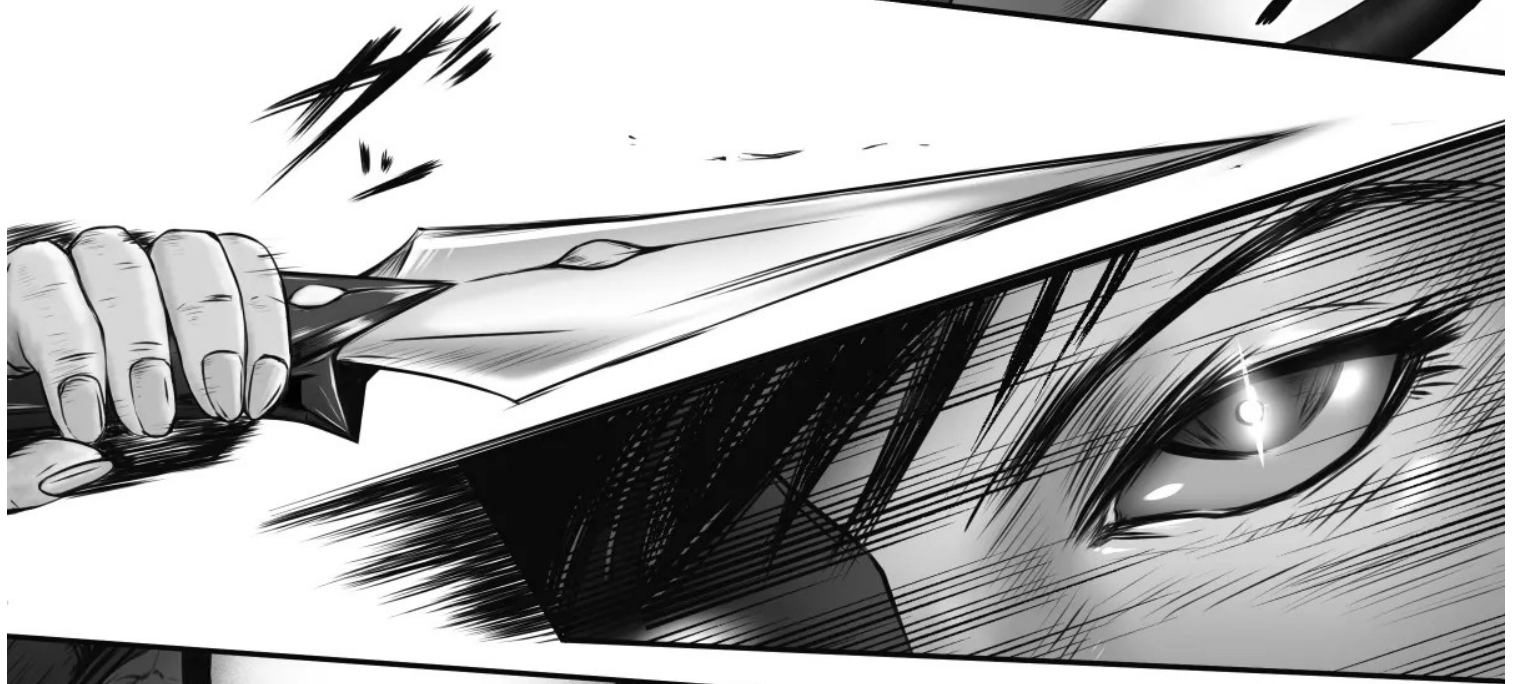
心の底から
このガロンヌ様に
服従と忠誠を誓い
忠実な下僕となつて
生きるのだ



やっ

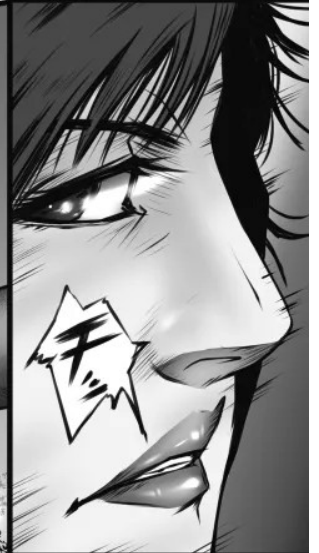
いいネっ！

あ





便利なモノ
持つてるのね



初手で仕留める
つもりだったのに
残念だわ



クツキツキツ
やつとおでましね

待ってたわよ

だから何？

それにしても
後ろから
襲ってくるなんて

正義の味方にしては
なかなか卑怯な手
使うじゃない

妖魔相手に
卑怯もあるものか

私は
どんな手を使っても
お前達とえ討てれば
それでいい

神咲彩乃



フフフツ…まさか
こういう形で
相まみえる時が
来ようかね

でも今の私は



最高に幸せよ!!





もらった!



カ
ク
ク



チツ！
もう伸びてる



斬魔剣バスターヘル
さすがに敵に回すと
厄介な代物ね

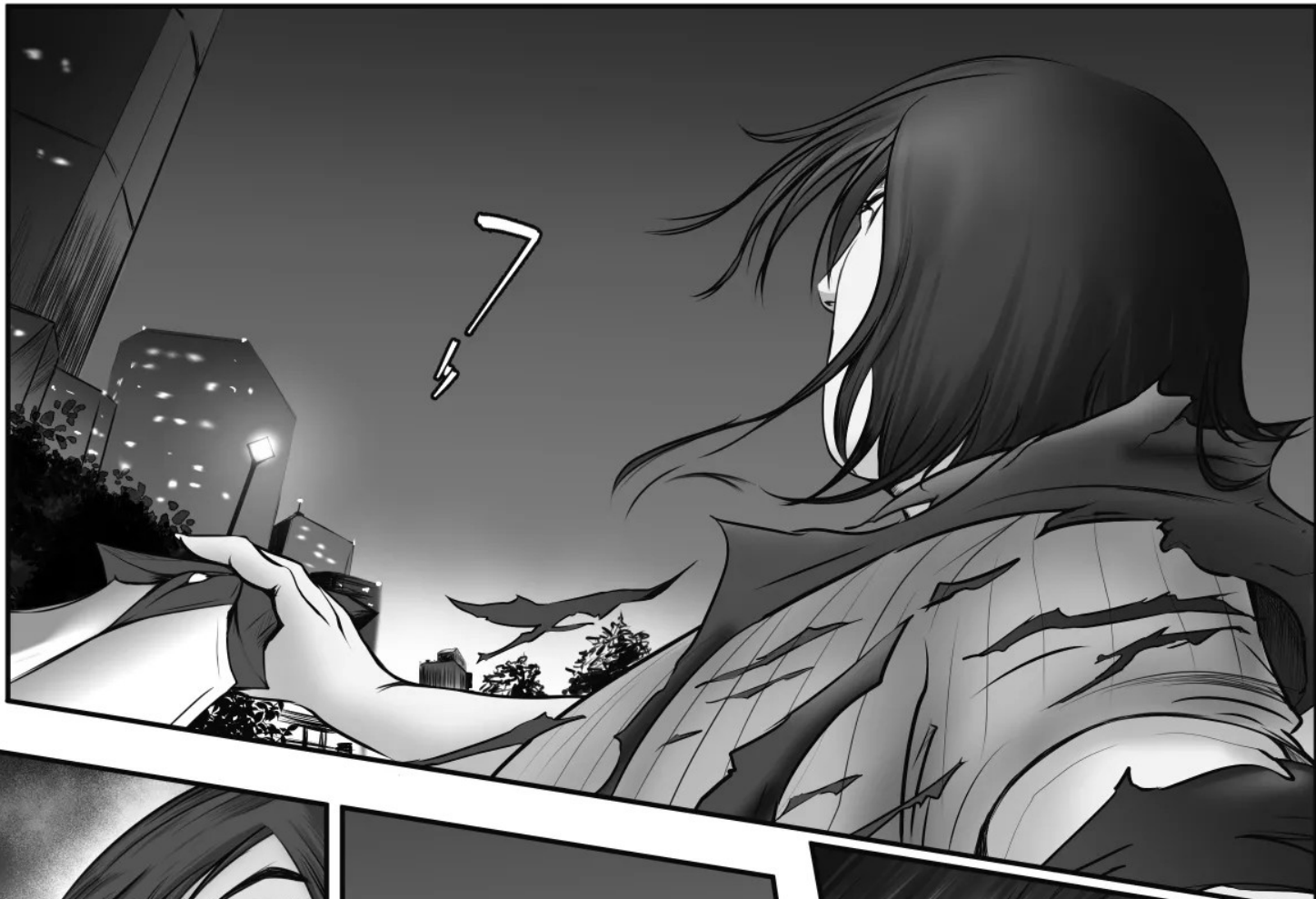


今度は
仕留める!!

笑わせるな!

クッ





きて……

毒抜きで
助けられれば
良いんだけど



ハサミ



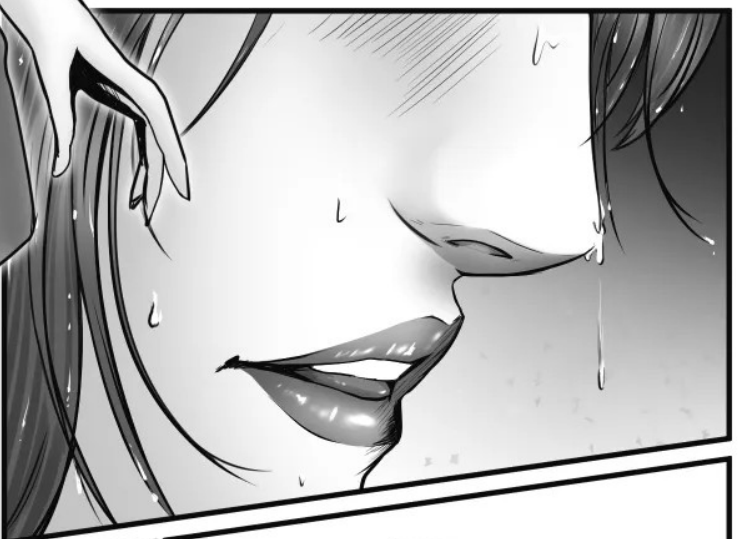
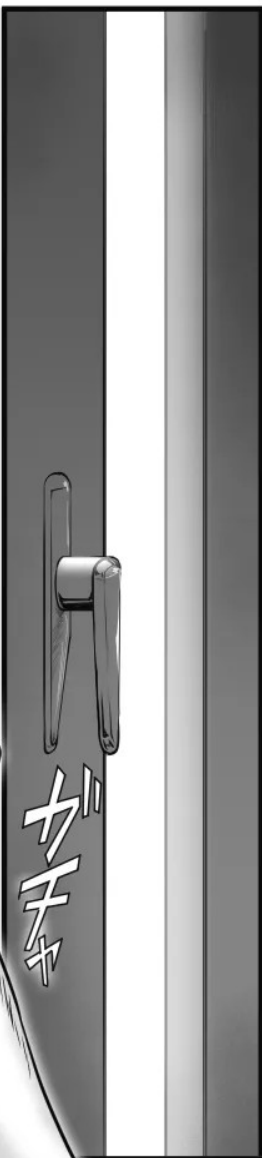
しまった！

逃げられた？！



ソム の 淫獣

復讐の女退魔師 01 絶望のその先に...



もしもし
彩乃さん

それよりごめんなさい
最近大きな事件の捜査が
大詰めです。なかなか
手が離せなくて……

それがあなたの
本業だもの
気にしないで

彰子さん
久しぶりね

彩乃さんの方はどう
例の闇門の所在
何か分かった？

しばらくだけど
大丈夫だった!?

いいえ……
それが何も
ただ さつき
女妖魔と遭遇したわ

女妖魔?!
何よそれ?
そんなのもいるの？

ええっ
私の方はいたって元気
心配しないで

そう
なら良かったわ

闇門が造り出した新種か
向こう側から呼び寄せた
魔族の類だと思っけど

いずれにしても
闇門の力が益々増幅
してる証拠だと思うわ

そう…実はね
その闇門の件で
彩乃さんに見てもらいたい
ものがあるの

私に…
見てもらいたいもの？

これなんだけど

うん

これって!?

間違いない!

ゲルドーラの
奴隷痕!!

彰子さん
これをどうぞ!

最近 連続で起こってる
婦女失踪事件の現場に
残されてる痕跡よ
以前 彩乃さんが言ってた
縄張りを示す妖魔特有の
マーキングじゃないかと思って…
やっぱりそうなの？

ええ...おそろくは

分かったわ
データを送っとく

でも相手はかなり狡猾な奴よ
くれぐれも気を付けてね

調べたいから詳細を
教えてもらえる

やっと見つけたわ
妖魔ゲルドーラ

今度こそ
絶対に逃がさない

昌也さん...
見ていてね



今度こそ必ず
あなたの仇を
打つてみせる

フッフツ バカな女

その女妖魔が私だつたとも知らずに

これでよろしいんでしょう
ガロン様♥

ああ 上出来だ

まんまと引掛かったわ

ガロン様

でも知りませんでしたわ

だから今回はゲルドーラ様も慎重なのだろうが

はる

もはや片割れの男がいない今となつては
いくら凄腕の女退魔師といえど勝ち目は無からう

ゲルドーラ様とあの女の間
にそんな因縁があつて
しかも一度封印されかけた
なんて……強いはずだわ



アふうウウ
ですわね♥
愉しみだわあ

知

ぬる

ぬる



ウおっ!?
おオオっ

じわる

ブルッ

それにしても
冷たいもんだな
昔の仲間に

んは



ゲルドーラ様の前で
無様な姿をさらす
あの女の顔を見るのが

ずる



フン
どうでもいいわあ
人間のことなど

んは

ぬる

ぬる



我らの敵は
排除するだけ

そうでしょ
ガロン様♥

ネえエ

そんな事より今日は私の気が済むまでしてくれるんでしょうネ

してくれないと許さないんだから

AA

ああっ もちろんだ何発でもそのスケベまんこにブチまけてやるよ

ニ

グッ

ポ

グッ

へっ 俺もだせえもうチンポが爆発しそうだ今にもイッちまいそうだ

ウフフツ 嬉しいイ嬉し過ぎてまんこがキョんキョんしちゃうワ

下

グッ

下

グッ



アアッぶつといのが
奥まで入ってキタあ

今日はいつも
増して大きく
感じるわあ

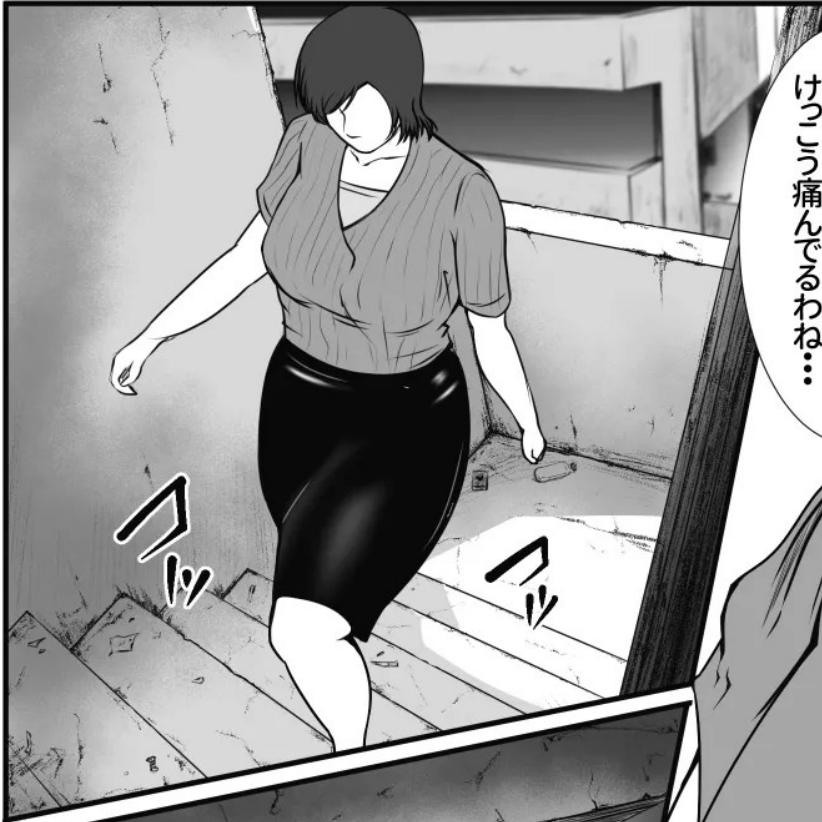
グッへへッ だろう
久しぶりだからな
俺様のチンポも
はりきってやがるぜ

あはあああんっ
もう最高ですわあ
私の愛しいガロン様あ

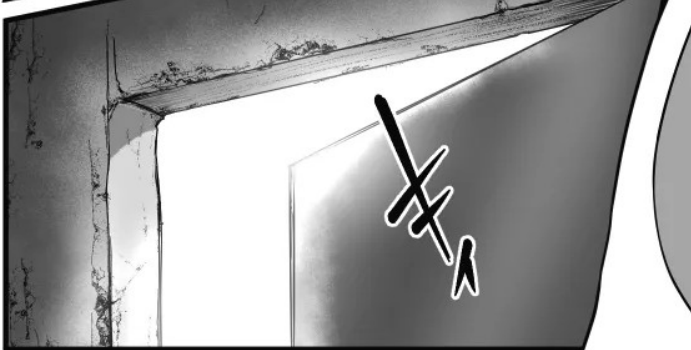
ああつ俺もだせえ
可愛いガロンヌよ
お前を造って本当に
正解だったせえ

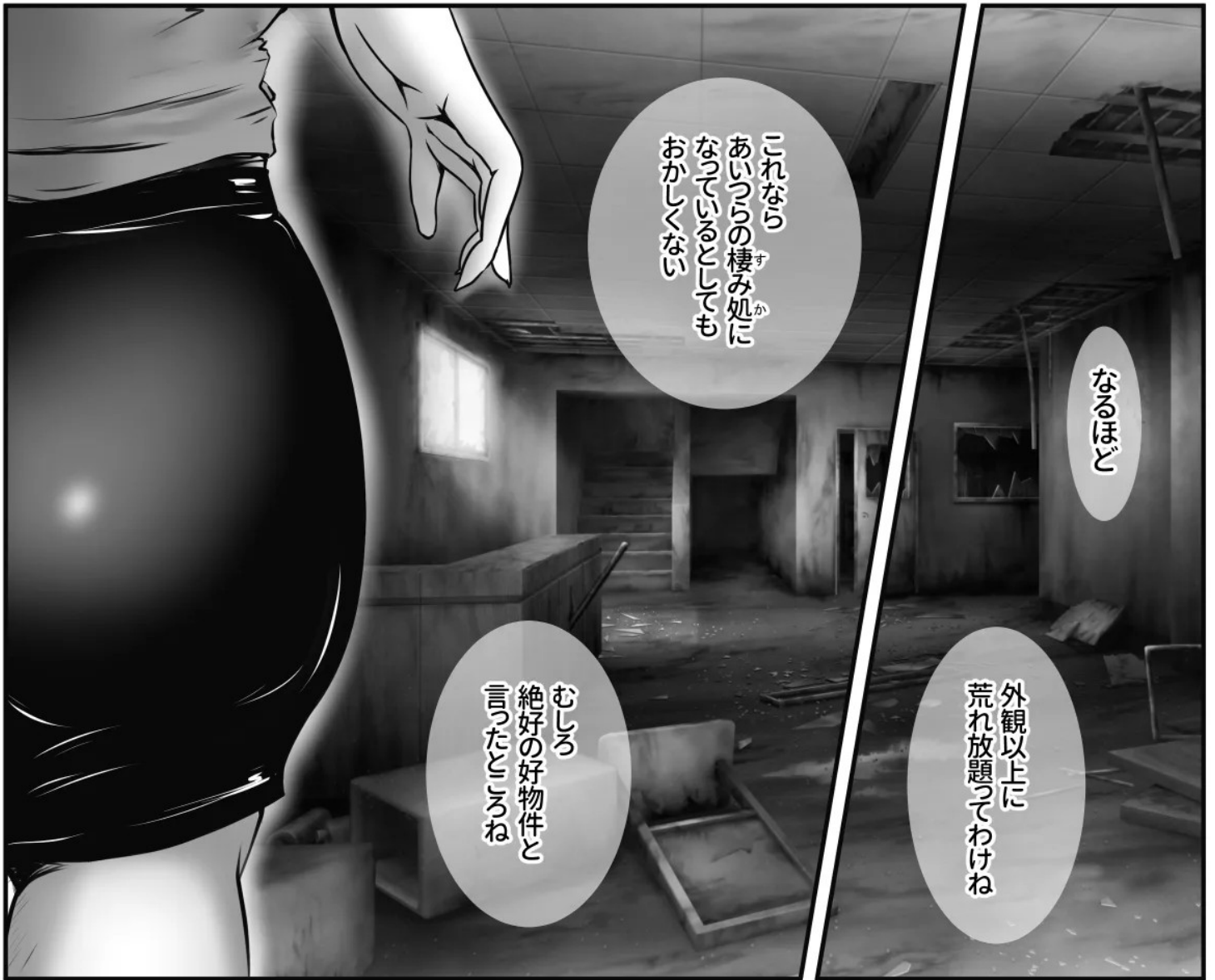


これが
彰子さんの情報にあった
元ラブホテルだったという
例の廃ビルね……



来年取り壊し予定って
聞いたけど
けっこう痛んでるわね……



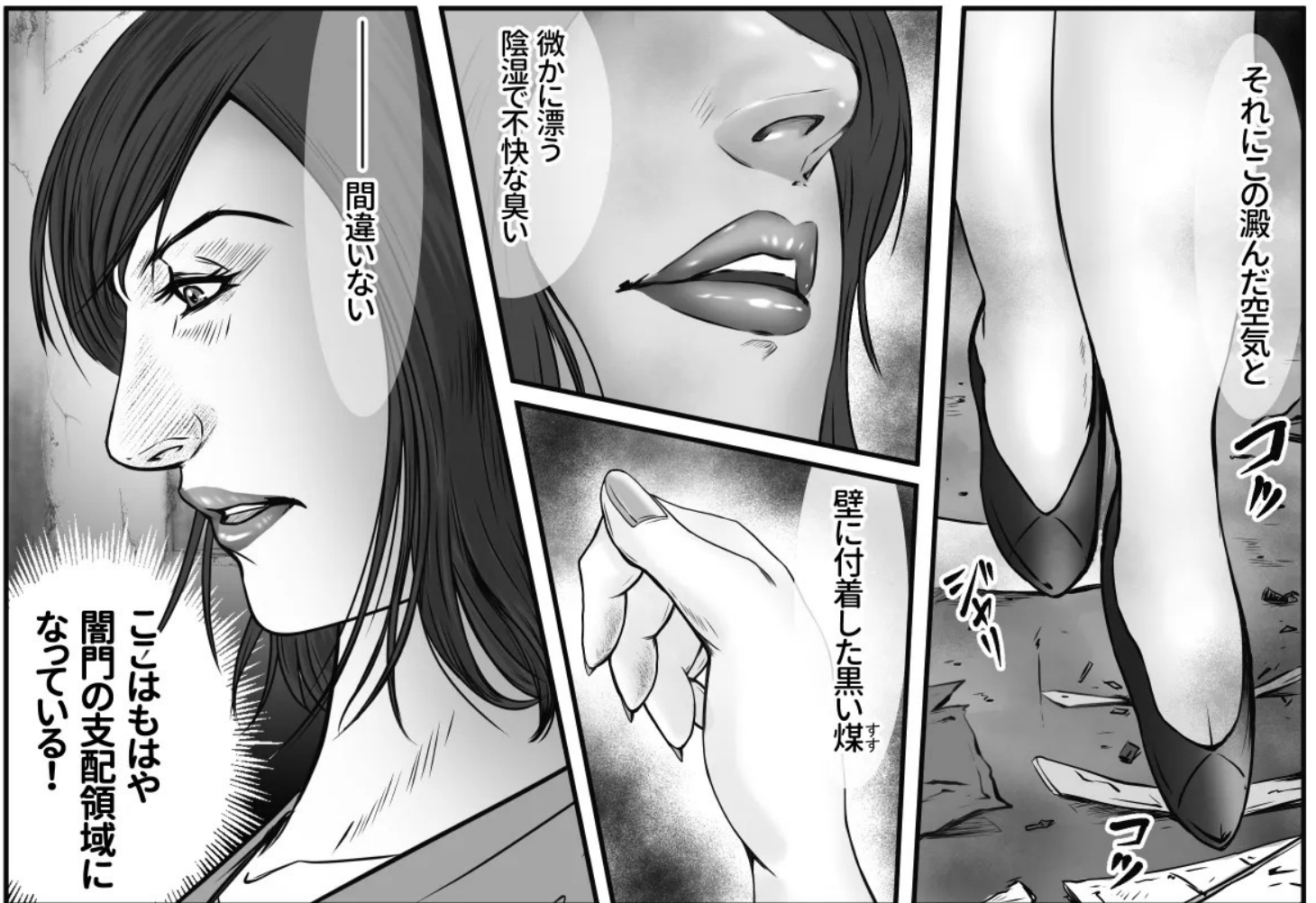


これなら
あいつらの棲み処に
なっていると
おかしくない

なるほど

外観以上に
荒れ放題ってわけね

むしろ
絶好の好物件と
言ったところね



それにこの澱んだ空気と

グック

グック

グック

壁に付着した黒い煤すす

微かに漂う
陰湿で不快な臭い

間違いない

「この好むや
闇門の支配領域に
なっている...」

立入禁止

例の部屋は
この奥ね——

この感じだとまだ何処かに
潜んでるかもしれない

不快な臭いが
奥へ行けば行くほど
強くなる

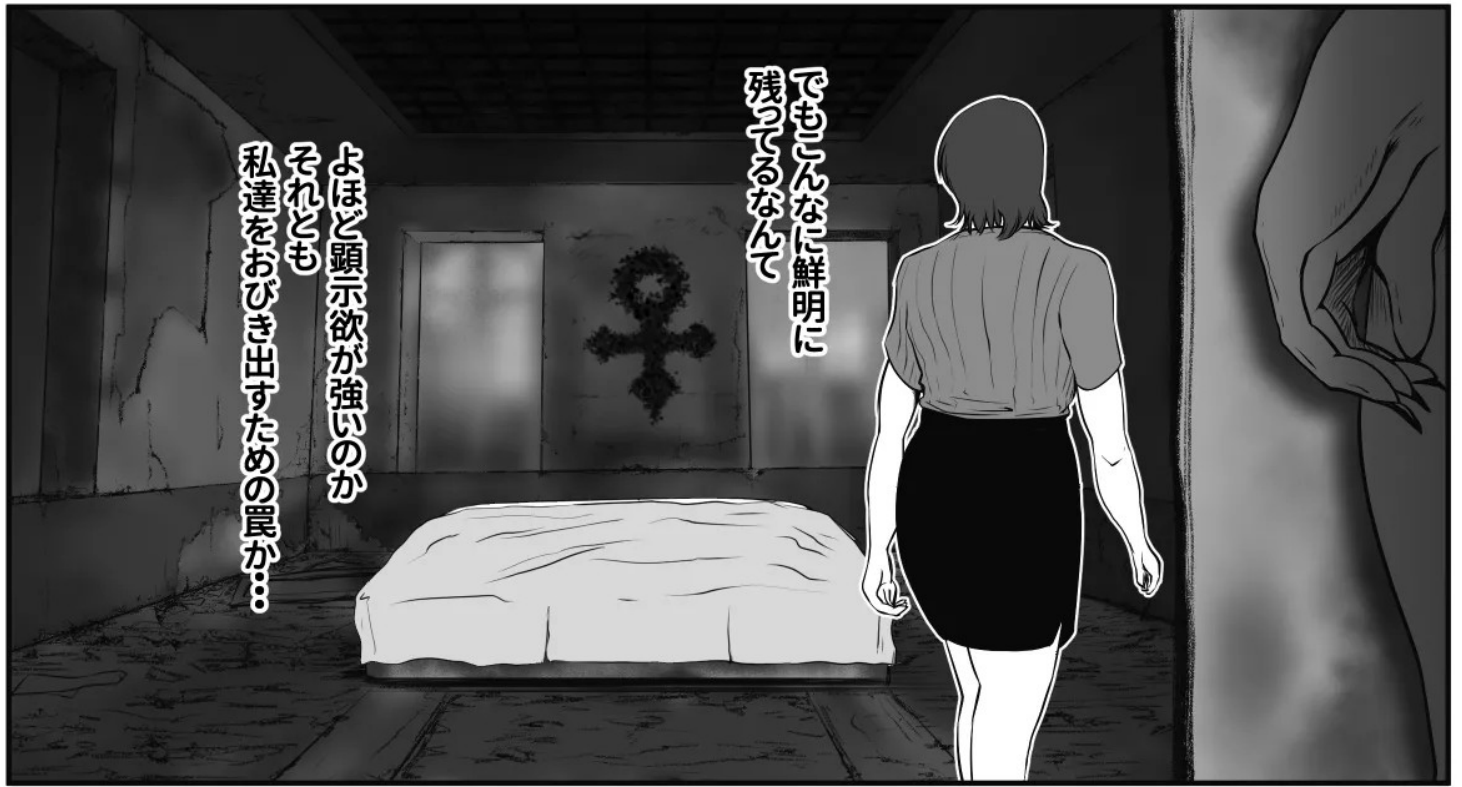
あった！

これね

縄張りを示すマーキング
ゲルドーラの奴隷痕

二度と見たくなかった
忌々しい印なのに……

またこの街で見るとこ
なるなんて……
あの人が最期に残した
言葉通りになったわね



でもこんなに鮮明に残ってるなんて

よほど顕示欲が強いのか
それとも
私達をおびき出すための罠か…



もしこれが罠だとすると…



あーギーン

えっ！

やっぱり
畏だったか…



お前を造った
“主”はどっかにいる

さあこのまま
消えたくなかったら
白状なさい！

その必要はない

憊なら
ここにおるぞ
神咲彩乃

ククツ
久しぶりだな

元気そうで
何よりだ

ゲルドーラ!

フ
マッ

今度こそ逃がさない!





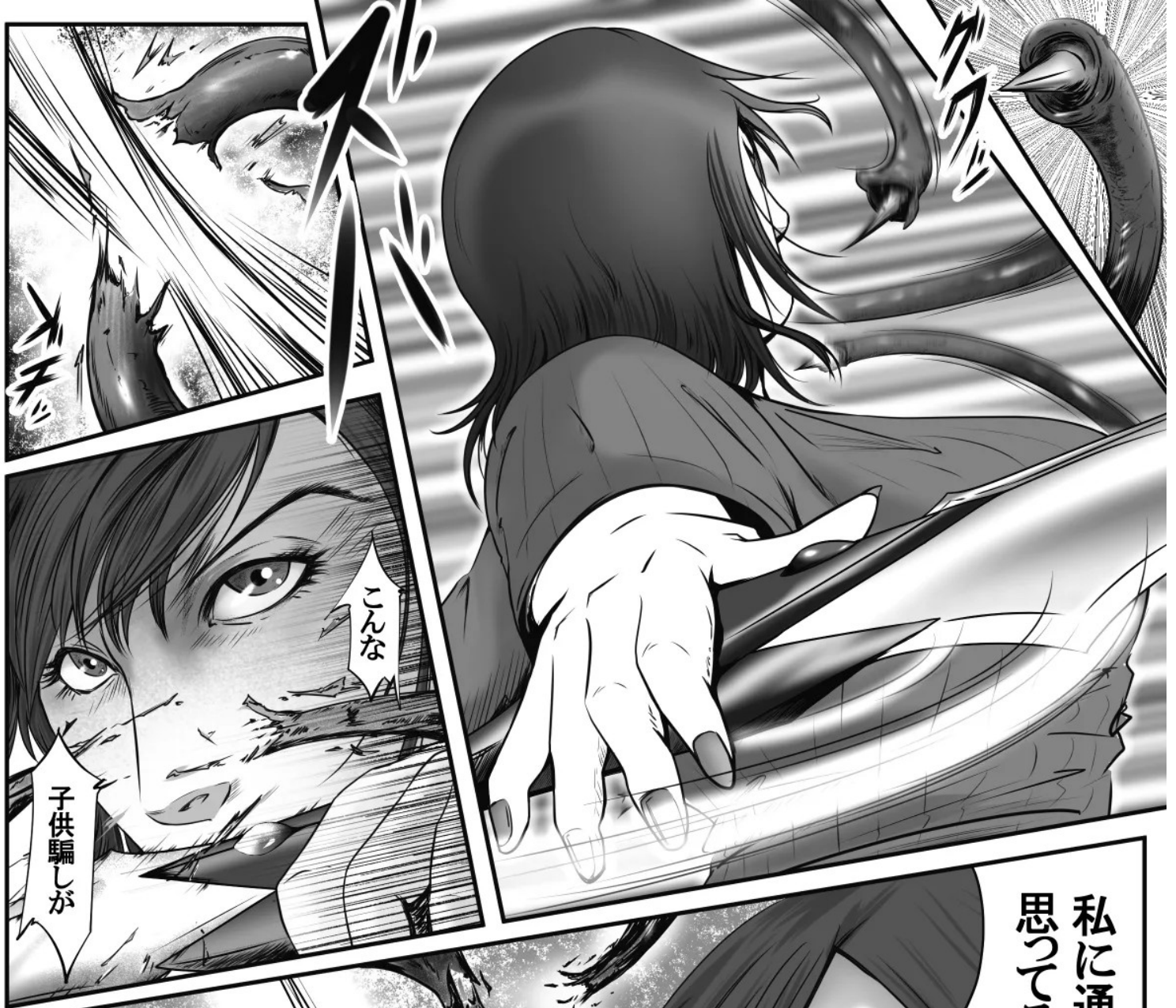


ククツ
さすがに強いな
だがまだまだじゃ

ちよ(まかど)!

その程度では
儂を討つなど
百万年経つても
叶わぬぞ!

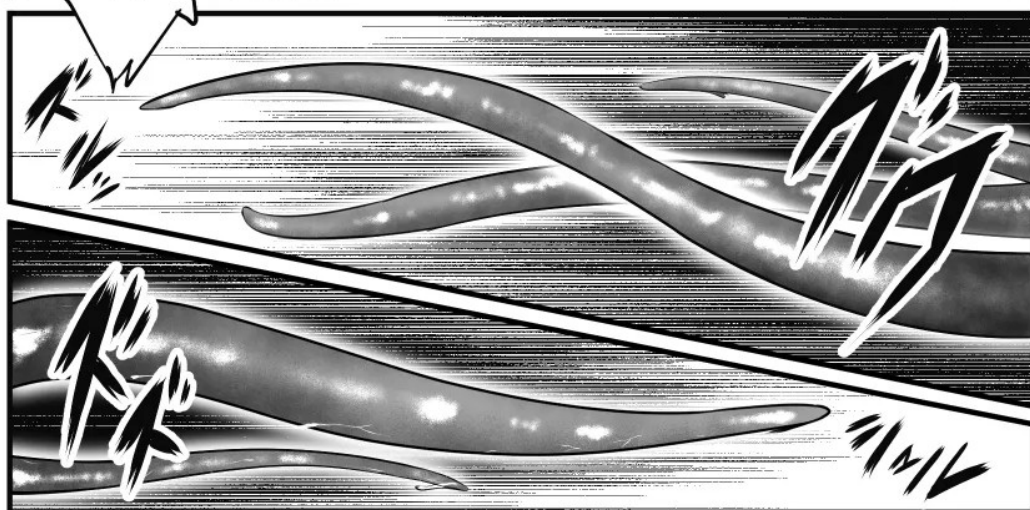




こんな
子供騙しが



私に通用すると
思ってるの！





グッ!
しまった
四方から!

ぐわん

ぐわん

ぐわん

ぐわん

ぐわん

ぐわん

ぐわん

ぐわん

ぐわん





クツクツクツ 捕獲完了じゃ

あ...

AN

あ...

AN

AN



おふじっ

おっ!?

アッ

ん

ン

おおっ 実にいい味じゃ
蜜壺とは
まさにこのことよ

弄れば弄るほど
スケベなメスの味が
沁み出てきよる

くっくっ
おぼけるなう!

おめろ!

ズ

ン





ならば僕から
良いモノを
くれてやろう

クククッ
歯痒いか？



何か入ってきた！



それは
我が悪念が生み出した
念蟲という代物でな

そいつは
体内に入るなり
肉に融け 血と交わり
精神すら侵しながら
お前を欲望と快楽に
満ちた闇の領域へと
導いてくれるのじゃ

ほおれ早速
効いてきただろう

かつ…躰が!?

躰が熱い

!!

ぞうじや
素直でよろこ

ならばもつと
素直になれるように
こいつをくれてやろう

ぞうじ

ぞうじ

ぞうじ



これを喰らえば
すぐに復讐の事など
どうでもよくなる

やっ…やめて!

グッ

グ

心配するな
今からお前が得るのは
これまでの常識や考えが
一瞬でくつがえるほどの
最高の悦びだ

グ

グ

A4

くるな

くるなっ!

ククツ急
しおらしく
なりおつて

だが
もう手遅れじゃ

我が念蟲おんむしと
魔瘴気の毒に
侵されたその躰で
この快楽にとこまで
堪えられるかの

グ

こんな汚いもの
私の内なかに
挿入いれないで!

やめっ

はあ

グ



がっ

ああっ

あっ!!

ああああっ!!



ああつ抜いて
こんな汚らわしいモノ
早く抜きなさい!

ククツそれが本心か?
違うじやろう
強がっても無駄じやぞ

本当はまだしてほしいのじやろう
この触手で膣肉の奥底まで
穿り回してほしいのじやろ
軀の方は正直に反応しておるぞ

どうじや?
愛した男のチンポなどは
比べ物にならないじやろう
だがしんのは序の口だ
これからまだまだ善くなるぞ



ほおれとうじや

あっ!?
アウウウウ

はあああ
ちっ…違っ
絶対に違う!
誰がこんなもの
欲しいものか!

やせ我慢は体に毒じゃぞ

ああ…いけない…

どんどん快感が
大きくなる…

このままじゃ
この世界に意識を
呑み込まれる…

委ねては
ダメよ!

ああ…ダメ…





ほおお
さすがに頑張るのお
大したものじゃ

だが所詮は羨あがきに
過ぎぬいくら強がった
ところで結果は同じ

ああアッ
もうやめて!

それよりも ほおれ
委ねてしまえ
溺れてしまえ

こん…なつ…
いやアア!!

そうすれば
楽になる
最高の快楽が
手に入るのじゃ



こんな屈辱…

ああダメッ

これ以上されたら

おかしくなつて

ああア...
頭がボーっとして来た

ああ...まずい...
なんかかじらない...

アアア
ダメ...ダメっ

感じては
ダメよ!

快感だけが
どんどん大きくなる

ほおれほおれ
とうじやとうじや
燃えてきただろ
滾ってきただろ

はあア...あっ

あはアアアア

ああっ...私
なんて恥ずかしい声
上げてるの??



ほおれほおれ
ここにもエキスを

注入じゃ

心あ

アアア……
とめられない……

どうしても
このはしたない声を
とめられないイ——



くっ…あっ!

カッ

あっ

あ

あ

ほおれあと
もう一押しごさ

ククツ どうじゃ
そろそろ世界が
変わってきただろう

ここがものすごい
居心地のいい世界に
思えてきただろう

あっ…あああ
やめて…
もうこれ以上

良いのだぞ それで
さあもつと穢れよ
そしてこのソドムに
相応しきメスとなれ!

私をおかしく
させないで!!



クッククック
いいではないか
おかしくなつて

そもそも
人間こそが
おかしな生き物
ではないか

それはお前とて同じ
お前の本質も
醜い欲望の塊に
過ぎぬのじや

今のお前なら
分かるであろう
自分がどうしたいか
どうなりたいか

さあ受け入れるのだ
駄目な自分を
弱い自分を

惨めでも 野蠻でも
わがままで強欲でも
それがお前なのだ
お前の本性なのだ

さあ もう楽になれ
自分を偽ることなく
淫らで賤しい
本当の自分を曝け出せ

全てを忘れて
この快楽に
その身を委ねるのだ





あっ…あアア
どうしてこんな
頭に響くの…

バカげな戯言なのに…
頭に響くたびに…
ゾクゾクとした昂ぶりが
軀の芯から込み上げてくる

おかしいわよ…
おかしいわよ…
…なんとかしないと

クククツ
頑張りは認めるが
良い声で啼くように
なってきたのお

ハア…助けて…
このままじゃ…私…
本当に…いつかの
思うがままに委ねられて…



そろそろ念蟲が
肉に融け 我が魔性が
沁み回ってきたようじゃ



おおお
まんこの締め付けも
烈しくなつて

摩擦汁がとんとん
溢れてきよる

もうじきじゃ

もうじきお前も
こちら側じゃ

ああア いやっ…嫌よ
こんな結末…
誰が受け入れるものか！

なのに…なのに…
こんな感じの
ぶらちな感情が…
どンドン溢れてくるの!!

気持ちいい…

気持ちいい…

気持ちいい

気持ちいい

クツクツ そろそろ
頤合いのようじゃの

ほおれ!



そうだいい貌じゃ
何もかも忘れこの快楽に
溺れてしまえ

ア

あっハア...

ほ

あつ...はアア...
ダメ...なのに...

所詮お前も
ただの人間
ただのメス

欲しかったのじゃろう
この快楽が!

魂が打ち慄えるような
この肉の悦びが!

気持ち

いいッ

愛した男の代わりに
性欲に餓えた心を
満たしてくれる
たくましい雄が!

あおっ!

あつ...
ハアう!

それこそが
お前の本望

切なる願い
だったのじゃ



愛するものを失った
失意のどん底で

お前はすつと性のはけ口を
探し求めていたのじゃ

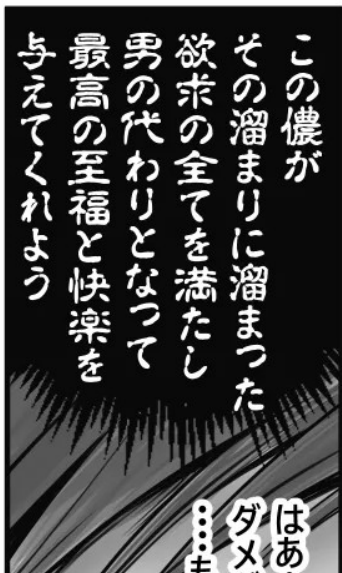


辛かったのだろう

寂しかったのだろう



だがそれも
これで終わりだ

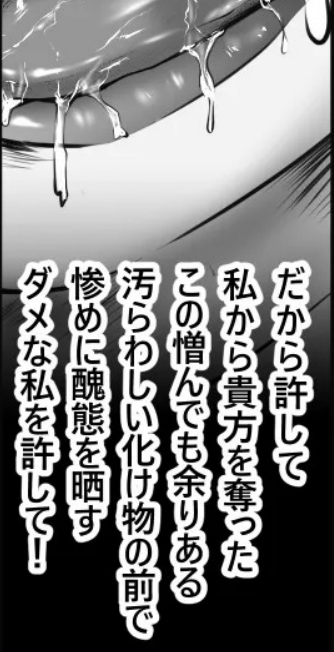


この儂が
その溜まりに溜まった
欲求の全てを満たし
男の代わりとなって
最高の至福と快楽を
与えてくれよう



はあ…ああ…
ダメだ…
…もう限界だ
許して
昌也さん…

もう無理なの
我慢できないの



だから許して
私から貴方を奪った
この憎んでも余りある
汚らわしい化け物の前で
惨めに醜態を晒す
ダメな私を許して！



あなたのこと
絶対に忘れない
すつと…すつと愛してやる

だから…
だからお願い

今だけ…
一度だけでいいから
イカせて！

ああもうダメ！

耐えられないイイ

ぐうあッ

あッ

はああああアア！！

ククツ 盛大にイキおつて
とうとう根を上げおつたか

他愛もない
所詮お前の復讐心など
その程度だったという事だ

これで準備は整った
一度心が折れてしまえば
もうこつちのものよ
じっくりとその肉体と精神に
闇の毒素を注ぎ込み
儂好みの食欲で賤しい
肉メスに調教してくれるわ

こうして私はゲルドーラの
圧倒的な力の前に
あっけなく屈し陥落した

ククククツツ！
本当の快楽は
これからじゃぞ

そのあとはもう悪魔に
なされるがままだった

ズ
ズ

もうお前を
縛るものは何もない

クウツッぞうだ
もつと曝け出せ

あッ

アあッ

与えられる快楽を
ただ欲望のままに
貪り尽くせ！

がッ！

アッ

あッ

あヒッ！

ガ
ガ
ガ

快楽をただ貪り尽くす
野蛮なケダモノなのだ

ズ
ズ
ズ

本当の自分を
浅ましき本性を

お前はケダモノだ

私は率先して快楽を受け入れ
その凄まじいばかりの肉の悦びに
何度も肢体を戦慄かせて
はしたない善がり声を放ち続けた

あっ…あアア…ケタモノ…
私は…快楽を貪り尽くす…

野蛮なケタモノ

ククツそうじゃ
ケタモノじゃ

あっ

さあ 好きなだけ
己が欲を満たすがよい

擽猛に 下品に
湧き上がる性欲を
剥き出しにして
思う存分快楽を
貪り尽くすのじゃ!

お前は変わったのだ
もう何も考えず
ただこの闇の快楽に
痴れ狂えばいいのじゃ

もはや私を陥れる
悪魔の囁きすら心地よかった
だから素直に受け入れた
口にするだけで、まるでそれ自体に
魔力が秘められているかのよう
それは脳髄に沁み込んできた



私は着実に変えられていった
もう心も体も完全に
ゲルドーラの意のままだった

あぁあ
ううう
ううう
ううう

あぁあ奥まで……
もっと奥まで
穿り回してええ

アッ
アッ
アッ

アッ
アッ
アッ
アッ
アッ

よがればよがるほど
醜態を晒せば晒すほど
肉の感度は増しその邪悪な思想は
私の意識深くまで沁み墮ちていった



いつしか私は狂ったように
よがり 喘ぎ 欲しがりながら
烈しく身悶えまくっていた

はああっ...あっ...
ケダモノ...ケダモノ

私は快楽を
貪り尽くす

はアッ

野蛮なケダモノ!

ちょうだい
ちょうだい!

まさにケダモノだった
快楽に餓えた野蛮なメス獣
そのものだった

あッ

はアッ

いっ
いっ
いっの!

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

すこく
いいの!!

はアッ

はアッ

もっと
ちょうだい!

ズ
ズ

はアッ

私は溺れ続けた
墮ちていくことが
悪に支配されていくことが
この上ない快感だった

一度と手放せないと思った

凄まじい快楽だった
最高の肉の悦びだった

んヌウはあぁっ!

もう夢中で欲した
この快楽さえ得られれば
他はぐっでも良かった

はヒィ

はぁ

ズッ
ズッ
ズッ

グッ
グッ
グッ

ハッ
ハッ
ハッ

ズッ
ズッ
ズッ

ズッ
ズッ
ズッ





憎しみや
屈辱感……

ああつ……
消えていく

あえっ!

あのひと
昌也さんの
想い……



何もかもがどうしても
良くなつていろんな感情が
快楽に塗り潰されていく

でも……

けが
穢れ落ちて
いくのが……

最高に気持ちいい!!

はっ

はっ

あぁあぁっ!
きっ
きっ
きっ

はっ

もっと奥まで
もっと烈しく

私のマンコを
穿り回してえ!

クツクツ
ぞりぞり
の語れんぞ

はっ

はっ

はっ

もっともつと欲望を
お前の本性を
剥き出しにするのじゃ



クツクツクツ

凄まじいものじやのオ
もはや肉欲の権化よ

そんなに欲しいなら
服従を誓うのじや

ガッガッ

ズク

ズク

あっヒッ

ああ

心の底から
この儘に忠誠を誓い
ソドムのメスとなつて
全てを捧げるのじや

はっああ
ちっ…誓います

わっ…私の
私の全ては
ゲルドーラ様のもの

このソドムの
メスとなつて…
ゲルドーラ様に

忠誠を誓いますううう

!!

私は人間

身も心も完全に

悪魔の支配下となった





しかし人間とは
実にあさましき
生き物じゃ

クッククック
良い具合に仕上がったのお

あれほど威勢よく
儂に挑んでおきながら
今ではアソコから
あんなにダラダラと
スケベ汁を垂らして
アハ顔を晒しておる

その愛憎の深さこそが
お前を造り変えるに
まさに好都合なのじゃ

復讐か
何か知らんが
無様なものよ
だが...

ムンムン

ああああっ
いいいいイイッ!
最高に気持ちいいっ!

あッ

ズボッ

あッ

あッ

ほッ

あッ

ズボッ

ククッ 実にいい貌じゃぞ
どうじゃ 妻に堕ちるのも
悪くはなからう

はあああっ
素敵よ素敵!
こんなに凄いなんで
こんなにイイなんて!

あはああー
イクッイク またイクッ!
またイクっやううう!!

ズッ

我に支配され
全てを委ねることでお前は今
人間では得ることのできない
至福の絶頂を手に入れたのじゃ

そして無様なイキ貌を晒す度に
お前の魂は闇に染まり
やがてはこのソドムに相応しい
凶妻な欲の塊となっていく

ズッ

ズッ

あっあっあおオっ!
幸せだ私は今

最高に幸せだ!

ああああっ
なんて素敵なの
なんて素晴らしいの!

ククツそうじゃ
その幸せを
手放したくなければ
もつと落ちるのじゃ

おオっ

オフウッ

己の猛々しい欲念を
凶々しき心の闇を滾らせ
更なる震の領域へと
落ちていくのじゃ!

もう手放すことなんて出来ない
いや絶対手放すものか!

オッ

クク

クク

クク

クク

クク

クク

クク

この快樂のためなら
私は何でもする
何にでもなる！

人間だって
やめられる！！

クツクツクツ
良い顔じゃ
どうやらお前にも
開いたようじゃの

魔へと通じる
凶悪なる闇の扉が

あああ
ゲルドーラさま♡

これまでの無礼の数々
どうかお許し下さい

今日より私は
あなた様に全てを捧げ



心の底からあなた様への
服従と忠誠を誓います！

クッ

いっ

フツフツよろしい
ならば変わるのじや
この僕の思うがままに

これでお前は
完全に僕のモノよ
クツクツクツクツ！

お前は羨だ！

闇の棘だ！

羨こそがお前の正義なのだ！

僕こそが
このジダムこそが

クッ

クッ

クッ

クッ

クッ

クッ

クッ

クッ

クッ

クッ



そう、そうよ
私は悪!

悪こそが

このソドムと

ゲルドーラ様こそが私の正義!

下着

下着

下着

下着

下着

下着

下着

下着

下着



あはっ はああアッ

ゲルドーラさまあ

さあ たつぷりと
濃厚な闇の汁を受肉し

火置きなく
生まれ変わるがよい

あああ

フツフツフツ
完成じゃ

ほおれ
鬼う存分喰らうのじゃ

これでお前を容易に
造り変えることができる

ただ欲望のままに



はい

ただ欲望のままに

あー

あ

あ

あ

あ

我が汁を肉の隅々
はらわたの奥底まで
沁み亘らせるのじゃ

そうすればお前は変わる
この儂の牝に！

このソドムの淫獣に
成り果てるのだあ！

あ

あ

あ

あ

ククツ そうじゃ
鬼う存分
吸い尽くすのじゃ



おっ!

おっ!

おっ!

おっ!

おっ!

おっ!

おっ!

おっ!

おっ!

おっ!

おっ!

おっ!

おっ!

おっ!

最高に気持ちいい
イイ！



はああアアあっ！

オオオオ



木木木

木木木

木木木



キィンッキィンッキィンッ!

はぁアアッ
なんてイイ気分なのおオ!





すうごく
気持ちいいわあ

あっ……アはあっ
ゲルドーラさまあ♡

ム
ム
ムッ

クククッ
素晴らしい
実に素晴らしい姿じゃ
あの勇ましい女退魔師が
見事にソドムの使い魔に
成り果ておったわ

神咲彩乃よ
今日よりお前は
我が忠実なる隷しよス
ゲルミーシャとして
この儂とソドムの
ために働くのじゃ

全ては親愛なる主
ゲルドーラ様の
仰せのままに…ウフ

はい
我が名は
ゲルミーシャ

よいな

ソムの淫獣

to be continued